

Der Wind

(風)

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局: 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1

江ノ電第2ビル7F

Tel: 0466-26-3028 Fax: 0466-27-5091

E-mail: jdgs@jcom.home.ne.jp <http://jdgs-shonan.ciao.jp/>

岩崎英二郎顧問(初代会長)のご逝去を悼みご冥福をお祈り申し上げます

岩崎英二郎先生を偲んで

湘南日独協会会長 松野義明

岩崎先生とは湘南日独協会が設立されたとき以来のおよそ20年にわたるお付き合いでしたが、特に、この5年ほどは、毎月、90歳台の先生を囲んで80歳台から60歳台、時には、70歳台のオーストリア老紳士も加わって5人ほどの後期高齢者が、真昼間から鎌倉の酒場で飲みながら放談するという愉快なお付き合いでした。先生は偉大なドイツ語学者であり、幾多の後進を育てた厳格無比な教育者であるのは万人の認めるところですが、実は、茶目っ気たっぷりのオヤジという側面も兼ね備えた絶妙なバランスのお人柄でした。

放談会のある日、「ヒトラーとチャップリンは双子だよ、君、知ってたかい？」とおっしゃいました。映画『独裁者』で、チャップリンがあまりにも巧みにヒトラーを演じたことと二人の生年月日が4日しか変わらない事実(H:1889.4.20;C:1889.4.16)からの連想から生まれた珍説でしょうが、「生年月日の4日のずれなんて何ともなるさ…、今度の読書会でみんなに話して煙に巻いてやるんだ…」とニヤリとするイタズラぶり。おそらく、本当に双子だったら、世の中がどんなに変わっただろうと空想を楽しんでおられたのだと思います。

別のとき、先生は物理学にも興味をお持ちだったので、ミクロの世界の現象をご説明するため、私が『シュレーディンガーの猫*』の話をすると、「へー、物理学者って妙なことを考えるもんだね。でも、くだらない物理学の実験に猫を使うなんて可哀想じゃないか、犬じゃダメなのかい？」とさりと受け流されました。今頃、天国の案内人、聖ペテロに難題を吹っかけて、軽妙洒脱な会話を楽しんでいるらっしゃることでしょう。心からご冥福をお祈りいたします。

*量子力学の波動方程式の解に、粒子の相反する二つの状態が50%ずつの確率で同時に存在するという奇妙な解釈が与えられたことに対して、それを批判するためにオーストリアの物理学者シュレーディンガーが考案した思考実験。

湘南日独協会の行事予定

■ Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第52回

日時 9月18日(月) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■ 9月例会 講演会

「ドイツ音楽の成り立ち(バッハ)まで」
ケルト、グレゴリア聖歌から中世、ルネッサンスからバロックまで、欧州を中心にドイツ音楽がどのように成立して来たのか、音楽の父と称される、バッハまでを語ります。

講師 高橋善彦氏 当協会理事

トランペットとリコーダーの演奏、編曲・指揮の分野でもアマチュアとして長年活躍。近年日本国内に音楽の歴史に関する情報の少なさに気づき資料の収集と研究に注力している。

日時 9月24日(日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア7F

会費 1,000円

懇親会 会費4,500円 宗平

■ Schwatzerei am Stammtisch 第34回

日時 10月6日(金) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク5階

会費 1,000円

■ 10月例会 湘南オクトーバーフェスト

日時 10月15日(日) 14:30~17:00

会費 6,000円

会場 藤沢市民会館 第一展示集会ホール

同封の振込用紙に参加者全員の氏名を記入、お振り込みください。振込用紙の領収書は念のため当日会場へお持ちください。振込締め切りは10月9日(月)までにお願いします。10日以降のキャンセルについては返金できません。お問い合わせは以下へお願いします。045-864-0104 大澤

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第 53 回

日時 10 月 22 日 (月) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 3 階

会費 1,000 円

■Schwatzerei am Stammtisch 第 35 回

日時 11 月 7 日 (火) 15:00~17:00

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5 階

会費 1,000 円

■Singen wir zusammen! 歌で楽しむドイツ語第 54 回

日時 11 月 19 日 (日) 15:00~16:30

会場 藤沢商工会議所ミナパーク 5 階

会費 1,000 円

■11 月例会 講演会

「ドイツをめぐる最近の情勢」

最近の難民問題、右派ポピュリストの動向、トランプショックに対する欧州の対応、ドイツの連邦議会選挙の結果を受けての今後の見通し等大変興味深い内容です

講師 中根 猛氏 前駐独日本大使

(現外務省科学技術協力担当大使)

日時 11 月 26 日 (日) 14:30~16:00

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000 円

懇親会を予定しています

(なお、7 月号で予告の講演会は変更になりました)

■12 月例会と望年会

講演会

「日本の不平等条約改正史におけるドイツの役割」

講師 五百旗頭 薫氏

日時 12 月 17 日 (日) 13:00~14:45

会場 湘南アカデミア 7F

会費 1,000 円

望年会

日時 12 月 17 日 (日) 15:00~17:30

会場 レストラン「ポルトヴィーノ」

(詳細は次号に掲載します)

7 月特別例会報告

「特別例会 レクチャーコンサート」を

今年も聴いて

会員 船木 健



船木健氏

今年もブレマーハーフェン在住の志賀トニオさんがご家族と共に帰国、恒例となった音楽講義を催された。7 月 11 日 (火) 午後 2 時、カトリック教会藤沢

ホールにおいて 35 名の受講者が集まり熱心に耳を傾けた。演題は「楽譜を読む“音楽は物理かも”」であった。

まず楽譜を読む大前提として 2 つの事を挙げられた。その 1 つは、隣り合う音は常に動く魚のように変えるということで、楽譜で同じ音が続くのであれば音楽は成り立たない、と説明、その 2 は楽譜を、森〜木〜森の順に読むことで、どちらもピアノを弾きながら話された。

次に音楽には、音形・リズム・和音・言葉の 4 要素があるとのことで、今回はその 3 番目の「和音」がメインテーマだとして詳述に移られた。和音には、主和音・属和音・下屬和音の 3 種があり、これらに就いてもピアノでいくつかの実例を示された。基本的な説明はそれで終り、モーツァルトの歌劇「魔笛」中、タミーノの独唱部分に入る。楽譜を目で慌しく追いながら構成和音を知る。トニオさんの弾き語りには素晴らしい。ところどころで、楽譜中のラルゲット、あるいはいくつかのシャープやフラットの説明もあり、作曲家の意図が少しは判ったような気になった。

講義の時間が半分以上過ぎたころ、皆で歌う時間になった。(昨年は「のぼら」であったが、) 今年「菩提樹」だ。最初にトニオさんが 1 番から 3 番まで通してピアノを弾きながらの模範歌唱。続いて聴衆が全員で歌うことになった。が、楽譜を見ながら歌っていると、たいがいはトニオさんの指揮を見ていないことに気付いた。そこで今度は楽譜を見ると同時に指揮も見るように心がけた。二度三度と歌っているうちにトニオさんから Gut! の合図が出るようになり、徐々にレベルアップしているのが実感できた。

私個人の好みを言うと、「菩提樹」は数ある西洋歌曲の中で最も好きな曲である。それゆえ、この日この時の合唱の時間はこの上なく楽しく、幸せなひとと

きであった。特に期せずしてこの曲が4部合唱で歌われて、しかもそれがものすごくハマっているの、何と素晴らしいことか！とジーンとくるものがあった。



レクチャー風景



終了後の懇親風景

トニオさんの音楽講義を一昨年・昨年と3回続けて聴いたが、毎回有益なお話で私の音楽人生に更なる知識増がもたらされるのでありがたく思うと同時に、この企画実行をされた協会の皆さんにも深く感謝している。

☆ ☆ ☆ ☆

7月例会報告

講演会「岩倉使節団のドイツ回覧」

会員 西山 忠壬



西山忠壬氏 岩倉使節団に関してご講演を頂いた。

7月の講演会には現在「米欧亜回覧の会」幹事をしておられる岩崎洋三先生に願ひして、明治4年末から1年10カ月に亘り日本からアメリカ合衆国、ヨーロッパ諸国訪問の為派遣された

この使節団の派遣は①条約締結 14 개국表敬訪問②条約改正予備交渉(条約改正期限:1872年明治5年)7月1日)③先進各国制度・文物視察を目的とし、岩倉具視を大使、副使に木戸孝允、大久保利通、伊藤博文、山口尚芳のほか、使節団 46 名のほか随従者、同行留学生を含む合計 107 名で構成されていた。

当初の予定では10カ月半にわたり14か国を訪問する予定で明治4年11月12日(西暦1871年12月23日)横浜を出航、アメリカへ。この使節団は不平等条約の改正に向けた予備交渉で、幕末期に欧米諸国と結ばれた不平等条約を改正し独立した一国家として各国と平等な国際関係を実現することが明治新政府の重要課題でもあったのであるが、最初の訪問地であるアメリカでの交渉では205日滞在したものの実質的な改正交渉は無理だと気づき、以後の訪問国、イギリス、フランス、ベルギー、オランダ、ドイツ、ロシア等の欧州諸国では改正希望のみを伝えるだけに終わる。

ドイツでは1873年3月7日まず人口5万1千526人を有する町エッセンを訪ね石炭や鉄を産出のほか銃砲製造で従業員2万人を抱える大手メーカー、クルップ社を訪ね、夜はクルップ氏宅での宴会に招かれた。その後ベルリンを訪問、20日間滞在するが、その間大公園、水族館見学、ウイルヘルム1世との謁見、夜は皇帝劇場でオペラ観劇や、皇帝のスピーチを聴き、ビスマルク宰相、モルトケ参謀長等と帝宮で会食、ジーマス社電気製造所、武器庫、天文台、城郭、兵舎、小学校、大学、消防社等の見学を済ませた後、ポツダムではブランデンブルグ王宮を見学ののち3月28日一旦ロシアに入り4月14日まで滞在の後、4月16・17の両日はハンブルクで市中遊覧バンク・オフ・エルフの河岸見学、更にデンマーク・スウェーデンを訪問後リュベック、ハンブルグ、ハノーヴァーを訪問後、フランクフルトではノーメン社で日本通行の紙幣製造を見学、ミュンヘン訪問をドイツ最後の訪問としてイタリアに向かった。各地を回ったのち、ドイツの風土、性格、法律制度等を参考に日本の法律、医学等ドイツから導入することとなるのである。

この岩倉使節団派遣の起案者はオランダ生まれの22歳でアメリカに移住し、日米修好通商条約調印の翌1859年(安政6年)11月29歳で長崎に宣教師として着任、洋学校の教師を務めた後、1869年(明治2年)3月太政大臣三条実美に招聘され開成学校教師件政府顧問となり、同年6月外国官副知事大隈重信に建言する「Brief Sketch」を提出したフルベッキ氏である。



講師の岩崎洋三氏



懇親会の模様

ドイツ語講座(秋・冬期)受講生募集中

詳細案内は同封しておりますのでご参照下さい。前期に開始した「入門クラス」を加えての5クラス、受講料の割引、初めてのの方の受講料の回数割などがあります。お問合せ先は次のように変更になっています。中村茂子(湘南日独協会理事)

〒247-0063 鎌倉市梶原3-26-6

Tel/Fax0467-43-2683 Email:natalie@jcom.zaq.ne.jp

プレーマーハーフェン 志賀トニオ氏

8月は劇場にとってシーズン始まり。公演は9月からですが、稽古はその3週間程前から始まります。私の劇場便りも早いもので2年目を迎えました。

今回は日独協会の会報という原点に立ち返り、音楽業界から見えてくる日独の違いをテーマにしたいと思います。私は毎晩ネットで日本の新聞を読むのが習慣ですが、今日”日米野球文化の違い。男の本能、報復は必要な事?”という記事がありました。投手が打者の頭にボールをぶつけて乱闘になり、その乱闘に加わるか、止めに入るか。「目には目を」の文化がある米国では前者が良しとされ、後者は裏切り者になる。仲間がやられたんだから、やり返さないとはどういう事か!となるわけである。ドイツだったらどうだろうか?と考えてみたが、おそらく米国と同じではないだろうか。正義と和を重んじ、後者を良しとする日本はむしろ世界的に稀有な文化なのではないか。話は飛びますが、出入りの激しい劇場の現場では、シーズン始まりに多くのニューフェイスが登場します。今年も20人余りが新加入しました。第1カペルマイスターはユダヤ人から、ギリシャ人に。合唱指揮者はロシア人からキューバ人に代わりました。他にもコレペティトーアに韓国人、合唱団にアメリカ人、ソロ歌手にインド人等々、これ程国際的な職場はドイツでもなかなかないのでは。旧西ドイツの町はどこに行っても人種のるつぼですが、旧東ドイツの町では8~9割ドイツ人で、劇場だけが別世界なのが不思議でした。

そして国際的という事はそれだけ文化の違いも存在する事になります。ここで先ほどの話に戻ると、正義と和を重んじる文化というのは、ここではなかなか通じないという難しさがあります。日本でオーケストラと対峙した時、奏者達は、ほぼ99%日本人です。ですから共通の文化を土台とする事ができますが、ドイツではドイツ人30~50%程度。他は外国人ですから、それらの人達をも納得させる説得力が指揮者には求められる事になります。日本で生まれ育った私にはドイツに來た当初その力がなく苦勞しました。

最初の試練はRostockの音大時代にオーケストラを結成した時でした。日本の桐朋学園時代にオーケストラを結成して学園祭で演奏した経験があったので、ドイツでも試みたわけですが、やはり国際色豊かな学生達相手に悪戦苦闘。

”ここで右に”と言って右に行ってくれる人は数名の心優しき日本人と比較的まじめなドイツ人くらいで、後は説き伏せるのに四苦八苦。それでも学生の間にその自前のオーケストラで4回演奏会を開き、少しずつ対応の仕方を覚えていきました。その後私が最初に就職したWeimarの劇場では合唱アシスタントとして合唱指揮者の指導ぶりから多くを学びました。この劇場の合唱団は旧東ドイツ出身者で50~65歳のドイツ人が7割を占め、非常に扱いの難しい団員達を手玉にとる技(笑)が必要でした。文句を言う隙を与えないスピーディーな稽古と言ひ回し。適度に休暇を与えてガス抜きする等。そして、ドイツには”絶対に謝るな”という文化があり、これを守る事が現場では大変重要でした。どんな事があっても自分の非を認めず説き伏せる強さ。弱肉強食で、弱ければ食われて終わるという厳しさ。正々堂々戦うのではなく、不意を衝いてでも勝つ為ならなんでもする執念。これらを理解し身に付けた上で、今度は日本の良さをどのように利点としていくか。劇場では家族のように働くので、日本の”和の精神”が重宝されます。自己を主張するばかりで協調性のない音楽家は結局長続きしません。そしてドイツでも有数のハードワークな職場ですから、忍耐力が不可欠です。このようにそれぞれの文化の良さを融合していけたら良いですね。



ロストックの音大時代オーケストラで指揮する筆者

編集後記

- 初代会長の岩崎先生のご逝去は大変残念なことです。来年の創立20周年記念には若い人達への「ドイツ語の勧め」(仮題)のご寄稿をお願いしておりました。叶わない現実に困惑も感じています。
- 今年も湘南オクトーバーフェストが近くになりました。合唱団アムゼルとドイツの歌を歌っているSWZの皆さんと歌い飲み大いに楽しみましょう。申し込みは早めをお願いします。
- マインツから長谷川孔一郎さんが短い夏休みに一時帰国歓迎会を持ちました。今月のレポートはお休みです。

大久保